



Title	米国管理下の南西諸島状況雑件 沖縄関係（毒ガス問題）第一次移送(4)( 公明新聞記事   外務省外交史料館レファレンス番号：nd)
Author(s)	-
Citation	平成25年度外交記録公開(1)No.1   公開日：平成25年10月30日   外務省外交史料館管理番号：A'.3.0.0.7-1(207)   CD・DVD番号：H25-001
Issue Date	
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/43780">http://hdl.handle.net/20.500.12000/43780</a>
Rights	外務省外交史料館所蔵資料

公明新聞記事

沖繩連絡官業務連絡

46.2.16

三木秀雄連絡官 殿

陸幕第3部業務班長

別添のとおり、参考資料を送付する。

(通報) 内局防衛課長  
外務省北米1課長

2月17日  
本信  
2月18日  
送付  
す  
り  
の

46. 1. 30.

田村教授 小山西代：「沖縄における毒ガス剤兵器移送計画」"レッドハット"作戦に関する調査研究報告」  
(46.1.29. 公明新聞掲載) に対する疑義について

区分	原文	疑義
調査に対する 基本姿勢	<p>……兵器は危険物であるがために……兵器を絶対安全などと強調することはナンセンスであるばかりでなく有害である。</p>	<p>この論理は、兵器の本質から逸脱している。即ち兵器はそのシステムが目標(敵側)に対し有効に發揮され、砲弾等が目標で炸裂したときはじめて殺傷、破壊が行なわれ、危険が発生するので、物が地域内にある場合は、その取扱、貯蔵、輸送時に、激烈な外力を加えない限り、高い安全が保証されている。兵器の品質管理は一般民用品に比し高い信頼性が要求されていることは言までもない。 (注) 激烈な外力とは、例えば大陨石の落下等。</p>
	<p>技術面以外の努力が傾注されてはならない。……主題とされなければならないのは「地域住民の安全」である。</p>	<p>米軍は、あくまでも安全第一を今回の目標としており、そのためのプロテクトとして移送対象である化学弾薬の安全及び輸送時・積換時の安全に鋭意努力したのであり、住民の安全については上記安全の完備によって確保しうると考えられ、決して第一義的な取上げ方を採るのではない。</p>
	<p>重大な公害問題の一つとして毒ガス問題に言及すべきである……</p>	<p>毒ガスが漏出し拡散する場合は、実害も考慮されるが、確実な保管乃至輸送の体制が整備されている現在、公害問題として言及することは正鵠を射た取上げ方とは考えられない。</p>
調査の報告	<p>安全を期するためには、温度計等の他の器具用具を準備し、化学的・物理的実検を必要とするところである。 しかし、複雑な地形や周囲の条件によっては、……不十分ではないだろうか。例えば、草などの繁茂地、疎林あるいは森林……その存在の確認は困難な場合が多いと、言及しなければならない。</p>	<p>弾薬庫内の温・湿度管理はなされておらず、庫内入り検査のため、原文のような器具用具持込みにより、如何なるデータを収集するかの真意不明。 沖縄における化学弾薬、資材の取扱、貯蔵、輸送は、すべて平滑地表面乃至舗装地表面で実施するので、このような金苔等、植生地としての漏出は考えられない。 よが、冠しかかる地形上で検知を実施するとして、現有検知器が、能力で困難は少ないと考慮される。</p>
討議の報告	<p>事前避難のための区域すなわち安全基準に基づき汚染推定区域の明示を求めたが</p>	<p>米本國において、輸送時、住民を事前避難させることはなっていないと承知している。(沖縄駐留時当該課程教育受講時、確認し、お</p>

2月1日午後刊行された「沖縄」に掲載された。

<p>討議の報告</p>	<p>米軍側は、... 応じはなかった。          本国の専門家スライク博士          アメリカ本土の住宅構造と沖縄にはおぼつかない          大きな相違と、アメリカの道路状況例えは...          ... 沖縄には同一の条件を適用すべきで          ないことを主張した。</p>	<p>過去の報道に見当たらない。          公衆衛生局 (Public Health Service) 長 スライク博士の          誤りではないか。          原文は、事前避難の必要性を認めない米軍側の考えに基づき、①住宅          構造、②道路状況ととりあげているが、住宅は米本土において          道路際には、沖縄の住宅より構造上気密を保ち得ないものも多くなり          れ、また、道路は必ずしも人家のない地域のみを通過しているという          ことはない。</p>
<p>輸送体系の          問題点</p>	<p>図-1          道路のカーブと傾斜面が多く、大小のカーブ          は13条を数え、かなりの坂道が3箇所          あり... 路面の凹凸のあることも指さす          はならなかった。          制限速度</p>	<p>「後尾警備車」のあとに、「消防車」が通行した。          現在の自動車工業のレベルでは、運行上特に問題とはなら          ない、また、本移送作業の安全確保の上からも、阻害事項と          はなり得ない道路状況と考えられる。          1月9日予行時は若干の速度のバラツキがあった (対向          車等の制限は未実施の状況下であったためと解釈) が、1月13          日移送時には改善された。</p>
<p>事故と安全          確保の問題点</p>	<p>これを具体例に例えれば、1立方メートル中100ミリグ          ラムのGBを混ぜた空気は30秒間呼吸          したのみで... 15分後には95パーセントが死          亡してしまうという猛毒性がある。          僅か1トンの程度が漏出すれば、それが          沖縄全県民を全滅させることができる          のである。          最も危険性の少ないHDを選んた、と米          軍側は説明した。          幸運の確率に支えられて...</p>	<p>誤記ではないか。  <math>LCT_{50} = 100 \text{ mg} \cdot \text{min} / \text{m}^3</math> とは、1立方メートル中100mgの濃度 (C) の          大気中で、1分間 (t) 被曝した場合半数 (50; median値) の人          員が死に至る (L; Lethal) 値である。          センセイショナルな誤認である。          漏出ではこのような惨事をおこすことはできない。          米軍側は、日本政府派遣団に対し、このような説明ではなく、別記          「琉球政府委託調査団報告全文」(同一紙面) 討議の報告中にあ          る①の内容と略々同じ説明を行なった。          この件については、田村、小山内両氏は、二通りの異なる表現を用          いている。(一方では容易性、他方では「コンクリート施設の都合。)          幸運の確率ではなく、人為的な安全措置の十分な実施に          よる高い安全確保の下に行なわれるとみるべきが、より科学的          であろう。</p>

安全対策の結論	(b) 万が一に備え、ゴム長靴、ビニール靴 ----- ----- 住民は用意する。	住民に対し、このような防護対策を準備させることは、現状からみ て不適切であると見える。
	(A) 毒ガス警報器 (神経ガス) の検出器材の 提供。	如何なる用法を考えているか 細部は不明であるが、かかる器 材を提供されても 適切な使用法は見当らないと考える。
	(c) ----- コーナール車 -----	多数の弾薬資材を一括して コーナール車に納めよう、細部は検 査結果 漏洩の危険の予想される 個体を 密閉容器 (半扉は準備 している) に納める方法が 合理的である。
琉球政府委託 調査団報告 全文	討議の報告: ⑤ VXの事故	VXの事故ではなく、GBの事故と発表している。 なお、当初 Wallstreet Journal 紙上には VX と報道されたが、 後に公表された際 GB と明らかになっている。
	なお、本報告①項と、前記「調査研究報告」事故と安全確保の問題頁内の記述に不都合がある。	